



平成26年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月9日

上場会社名 株式会社ジェイグループホールディングス
コード番号 3063 URL <http://www.igroup.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 新田 二郎
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 赤工 朝飛
四半期報告書提出予定日 平成25年10月15日 配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

TEL 052-243-0026
平成25年10月31日

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年2月期第2四半期の連結業績(平成25年3月1日～平成25年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期第2四半期	5,532	15.5	△39	—	3	△88.9	△14	—
25年2月期第2四半期	4,788	3.5	41	△23.4	29	△74.9	4	△93.9

(注) 包括利益 26年2月期第2四半期 △27百万円 (—%) 25年2月期第2四半期 2百万円 (△97.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
26年2月期第2四半期	△2.09	△1.99
25年2月期第2四半期	0.70	0.66

(注) 当社は平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を200株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しておりますので、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円銭	百万円	円銭	%	円銭
26年2月期第2四半期	8,285	272.90	2,182	272.90	26.3	272.90
25年2月期	6,947	249.79	1,626	249.79	23.4	249.79

(参考) 自己資本 26年2月期第2四半期 2,182百万円 25年2月期 1,626百万円

(注) 当社は平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を200株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しておりますので、1株当たり純資産につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
25年2月期	—	0.00	—	500.00	500.00
26年2月期	—	500.00	—	—	—
26年2月期(予想)	—	—	—	2.50	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を200株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しております。平成25年2月期については当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 平成26年2月期の連結業績予想(平成25年3月1日～平成26年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	11,000	10.4	160	133.7	160	143.2	40	61.6	5.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料4ページ「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年2月期2Q	8,196,400 株	25年2月期	6,710,800 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

26年2月期2Q	200,000 株	25年2月期	200,000 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年2月期2Q	7,133,791 株	25年2月期2Q	6,375,400 株
----------	-------------	----------	-------------

(注) 当社は平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を200株に分割し、1単元の株式数を100株とする単元株制度を採用しておりますので、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

当社は、平成25年10月22日に機関投資家及びアナリスト向けの四半期決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料につきましては、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) セグメント情報等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安、株高が進み、アベノミクスへの期待感から景気回復に向けて明るい兆しが見られるようになってまいりましたが、デフレ基調の改善や実体経済の回復については、依然として不透明な状況で推移いたしました。

外食業界におきましては、景気回復による所得増加への期待感や法人需要の拡大が期待される中で、消費マインドも改善が進んでおり、需要回復が感じられる状況でありました。

このような環境のもと、当社グループでは、中長期的な出店計画の達成を目指し、新規出店に注力するとともに、主力業態である芋蔵のメニューの見直しなど、既存店売上高の向上に注力いたしました。出退店におきましては、9店舗を新規出店、3店舗をリニューアルオープンし、平成25年8月末日現在の業態数及び店舗数は、46業態98店舗（国内97店舗、海外1店舗）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,532百万円（前年同期比15.5%増）となりましたが、新規出店費用等により営業損失は39百万円（前年同期は営業利益41百万円）、経常利益は3百万円（前年同期比88.9%減）、四半期純損失は14百万円（前年同期は四半期純利益4百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 飲食事業

新規出店に注力するとともに、既存店のリニューアルオープンやメニューの充実など、既存店売上高の向上に注力いたしました。

新規出店におきましては、平成25年5月に、日本橋エリアの再開発の一環として、地元の素材を活かし生産者と消費者をつなぐことをコンセプトに、定期的なイベントを開催するなどの文化情報発信型飲食店「豊年萬福（ホウネンマンブク）」（東京都中央区）をオープンするとともに、同月に、「てしごと家（テシゴトヤ）新浦安店」（千葉県浦安市）及び「芋蔵（イモゾウ）新宿西口店」（東京都新宿区）をオープンいたしました。また、6月には、モデル・タレントの越智千恵子さんのレシピ本『越智千恵子のパンケーキCafe 88 huithuit』を現実の店舗として再現した「88 huithuit（ユイットユイット）アスナル金山店」（名古屋市中区）をオープンいたしました。加えて、同月には「芋蔵池袋東口店」（東京都豊島区）、7月には「芋蔵京都木屋町店」（京都市中京区）をオープンするとともに、8月には「ほっこり静岡呉服町店」、「二六丸（ニロクマル）静岡呉服町店」及び「88 huithuit静岡呉服町店」（静岡市葵区）をオープンいたしました。

業態変更につきましては、平成25年3月に「名古屋丸八食堂（ナゴヤマルハチショクドウ）京都ヨドバシ店」（京都市下京区）を「薩摩はやと（サツマハヤト）」として、4月に「桜木ハイボール（サクラギハイボール）」（横浜市中区）を「Gappo（ガッポ）桜木町」、「金山鍋蔵（カナヤマナベゾウ）」（名古屋市中熱田区）を「二六丸金山店」として、リニューアルオープンいたしました。また、「うな匠（ウナショウ）千里中央店」及び「薩摩とりとん（サツマトリトン）」（大阪府豊中市）を閉店いたしました。

その結果、飲食事業における売上高は4,848百万円（前年同期比10.8%増）、営業利益は145百万円（同451.6%増）となりました。

② ブライダル事業

前連結会計年度にオープンいたしました新バンケット「LUCENT Mariage Tower（ルーセントマリアージュタワー）」が順調に稼働いたしました。その結果、ブライダル事業における売上高は451百万円（前年同期比159.8%増）、営業利益は24百万円（前年同期は営業損失24百万円）となりました。

③ 不動産事業

テナントビル「ダイヤモンドウェイ」や「G-SEVENS（ジーセブン）刈谷」などの賃貸収入に加え、ホールディングス体制への移行に伴い、グループ会社間の賃貸収入が増加いたしました。その結果、不動産事業における売上高は764百万円（前年同期比474.0%増）、営業利益は68百万円（同328.6%増）となりました。

④ その他の事業

広告代理業及び卸売業等のその他の事業における売上高は429百万円（前年同期比24.8%増）、営業利益は21百万円（同23.4%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は8,285百万円（前連結会計年度末比1,338百万円増加）となり、負債は6,103百万円（同782百万円増加）、純資産は2,182百万円（同555百万円増加）となりました。

流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ総額で821百万円増加し1,887百万円となりました。これは、現金及び預金が、公募による新株式の発行を主因に715百万円増加し、売掛金が35百万円増加したことなどが主な要因であります。

固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ510百万円増加し6,391百万円となりました。これは、新規出店やリニューアル等の設備投資によって、有形固定資産が486百万円増加、差入保証金が16百万円増加したことなどが主な要因であります。

流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ659百万円増加し2,741百万円となりました。これは、買掛金が166百万円、1年内返済予定の長期借入金が171百万円、未払金が301百万円それぞれ増加したことなどが主な要因であります。

固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ123百万円増加し3,362百万円となりました。これは、長期借入金が54百万円増加したことなどが主な要因であります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ555百万円増加し2,182百万円となりました。これは、公募による新株式の発行及び新株予約権の権利行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ299百万円増加したことなどが主な要因であります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動によるキャッシュ・フローが492百万円の資金増（前年同期は47百万円の資金減）、投資活動によるキャッシュ・フローが486百万円（前年同期比44.5%増）の資金減、財務活動によるキャッシュ・フローが710百万円（同133.6%増）の資金増となりました。その結果、当第2四半期連結会計期間末の資金残高は1,081百万円となり、前連結会計年度末の365百万円に比べ715百万円増加しております。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は492百万円（前年同期は47百万円の使用）となりました。これは主に、非資金項目である減価償却費を348百万円計上し、仕入債務の増加額が165百万円あったことなどによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は486百万円（前年同期比44.5%増）となりました。これは主に、新規出店やリニューアル等に伴う有形固定資産の取得による支出が420百万円、差入保証金の差入による支出が88百万円あったことなどによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は710百万円（前年同期比133.6%増）となりました。これは主に、公募増資及び新株予約権の権利行使に伴う株式の発行による収入が599百万円、長期借入れによる収入が630百万円あり、長期借入金の返済による支出が441百万円あったことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の連結業績は、アベノミクスへの期待感などから消費マインドの改善傾向が見られ、既存店実績が堅調に推移したものの、新規出店及びリニューアルオープンに注力したことにより、新規店舗において予算と実績とに差異が生じました。この新規店舗における差異は、オペレーションが安定してくることなどによって、下期での改善を見込んでおります。また、新業態のパンケーキカフェ「88 huituit」が好調に推移していることから、今後の収益貢献を見込んでおります。なお、平成25年10月4日に公表いたしました通期の連結業績予想につきまして、変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第1四半期連結会計期間より、新たに設立した(株)ジェイエイトを連結の範囲に含めております。また、当第2四半期連結会計期間より、持分法適用関連会社の株式会社SARUが連結子会社となり、連結の範囲に含めております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（減価償却方法の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ9,912千円減少し、経常利益は同額増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	426,105	1,141,916
売掛金	297,258	333,240
商品及び製品	244	331
原材料及び貯蔵品	68,348	76,914
その他	291,876	351,710
貸倒引当金	△17,725	△16,155
流動資産合計	1,066,107	1,887,959
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,877,010	3,155,259
土地	1,364,881	1,428,664
その他（純額）	281,400	425,717
有形固定資産合計	4,523,292	5,009,641
無形固定資産	33,836	34,759
投資その他の資産		
投資有価証券	8,614	9,220
差入保証金	1,109,350	1,126,190
その他	205,901	211,516
投資その他の資産合計	1,323,867	1,346,926
固定資産合計	5,880,995	6,391,327
繰延資産	—	6,278
資産合計	6,947,102	8,285,566

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	353,523	519,553
短期借入金	33,280	—
1年内返済予定の長期借入金	848,960	1,020,182
未払金	575,333	877,115
未払法人税等	6,883	33,427
その他	264,020	291,025
流動負債合計	2,082,000	2,741,304
固定負債		
長期借入金	2,958,193	3,012,745
資産除去債務	56,105	59,685
その他	224,464	289,651
固定負債合計	3,238,762	3,362,081
負債合計	5,320,763	6,103,386
純資産の部		
株主資本		
資本金	769,031	1,068,969
資本剰余金	699,031	998,969
利益剰余金	240,175	208,973
自己株式	△76,000	△76,000
株主資本合計	1,632,238	2,200,911
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△5,900	△18,731
その他の包括利益累計額合計	△5,900	△18,731
純資産合計	1,626,338	2,182,179
負債純資産合計	6,947,102	8,285,566

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
売上高	4,788,382	5,532,491
売上原価	1,430,690	1,698,003
売上総利益	3,357,692	3,834,488
販売費及び一般管理費	3,315,859	3,874,230
営業利益又は営業損失(△)	41,833	△39,741
営業外収益		
受取利息	415	1,020
協賛金収入	10,049	47,137
設備賃貸料	2,267	2,011
為替差益	3,398	16,537
その他	9,410	12,883
営業外収益合計	25,541	79,591
営業外費用		
支払利息	28,817	31,429
その他	9,384	5,168
営業外費用合計	38,202	36,597
経常利益	29,172	3,252
特別利益		
固定資産売却益	579	—
特別利益合計	579	—
特別損失		
貸倒引当金繰入額	915	—
店舗閉鎖損失	—	8,299
特別損失合計	915	8,299
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	28,836	△5,047
法人税等	24,379	9,878
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	4,457	△14,925
四半期純利益又は四半期純損失(△)	4,457	△14,925

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	4,457	△14,925
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△2,267	△12,831
その他の包括利益合計	△2,267	△12,831
四半期包括利益	2,189	△27,757
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,189	△27,757

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	28,836	△5,047
減価償却費	259,172	348,912
のれん償却額	491	589
賞与引当金の増減額(△は減少)	△7,883	—
受取利息及び受取配当金	△415	△1,020
支払利息	28,817	31,429
有形固定資産売却益	△579	—
売上債権の増減額(△は増加)	△82,228	△48,398
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,793	△7,727
仕入債務の増減額(△は減少)	△99,029	165,792
その他	△92,840	51,118
小計	31,547	535,648
利息及び配当金の受取額	415	1,020
利息の支払額	△29,137	△31,746
法人税等の支払額	△50,739	△12,665
営業活動によるキャッシュ・フロー	△47,914	492,256
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△520,595	△420,239
有形固定資産の売却による収入	3,200	—
無形固定資産の取得による支出	△1,423	△552
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	5,446
差入保証金の回収による収入	209,797	26,269
差入保証金の差入による支出	△54,048	△88,098
その他	26,162	△9,541
投資活動によるキャッシュ・フロー	△336,907	△486,716
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△25,282	△33,280
長期借入れによる収入	785,000	630,000
長期借入金の返済による支出	△476,744	△441,466
リース債務の返済による支出	△15,026	△21,852
株式の発行による収入	36,000	599,875
株式の発行による支出	—	△6,849
配当金の支払額	—	△16,277
財務活動によるキャッシュ・フロー	303,947	710,149
現金及び現金同等物に係る換算差額	53	115
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△80,821	715,805
現金及び現金同等物の期首残高	322,346	365,830
現金及び現金同等物の四半期末残高	241,525	1,081,636

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成25年6月25日付で、公募による新株式発行の払込みを受けました。この結果、当第2四半期連結会計期間において資本金が269,587千円、資本準備金が269,587千円増加し、また新株予約権の行使により当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,068,969千円、資本準備金が998,969千円となっております。

(6) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間（自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	飲食	ブライダル	不動産	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	4,377,099	173,248	90,796	4,641,144	147,237	4,788,382	—	4,788,382
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	333	560	42,312	43,206	197,102	240,309	△240,309	—
計	4,377,432	173,809	133,109	4,684,351	344,340	5,028,691	△240,309	4,788,382
セグメント利益又は損失(△)	26,459	△24,133	15,959	18,285	17,336	35,621	6,211	41,833

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告代理業や卸売業、有料職業紹介業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額6,211千円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	飲食	ブライダル	不動産	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	4,803,264	451,580	97,088	5,351,933	180,558	5,532,491	—	5,532,491
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	44,780	—	666,923	711,704	249,282	960,986	△960,986	—
計	4,848,044	451,580	764,012	6,063,637	429,840	6,493,478	△960,986	5,532,491
セグメント利益又は損失（△）	145,946	24,245	68,401	238,593	21,397	259,991	△299,733	△39,741

（注）1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告代理業や卸売業、有料職業紹介業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失（△）の調整額 △299,733千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更等に記載のとおり、当社および国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間のセグメント利益は、「飲食事業」が9,549千円、「不動産事業」が363千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（重要な負ののれん発生益）

「飲食事業」セグメントにおいて、株式会社SARUの全株式を取得し子会社化したことにより、負ののれん1,831千円が発生しました。なお、当該事象は、当第2四半期連結累計期間において、発生益として営業外収益に計上しております。

（追加情報）

当社は平成24年9月3日付けの会社分割により持株会社へ移行しております。

これにより、従来と比較して、当第2四半期連結累計期間の営業費用は「飲食事業」が301,128千円減少し、「調整額」は同額増加しております。